

# たがらじま



2021年9月発行 NO.33  
特定非営利活動法人 宝島  
座間市入谷西2-53-14  
TEL 046-259-5120  
FAX 046-259-5121  
会員数80名 (令和3年9月現在)



～人間が生きていく上で最高の宝物、それは「思いやり」や「やさしさ」  
私達は障がい児者支援を通して、その宝物を身につけていきます。～

## 就任からの3カ月を振り返って

理事長に就任して丸3カ月が経ちました。その前までも理事として『宝島』の経営・運営をサポートしてきましたが、今度はサポートではなく直接、経営・運営のリーダーシップをとる立場になり、改めてその責任の重さを日々感じているところです。

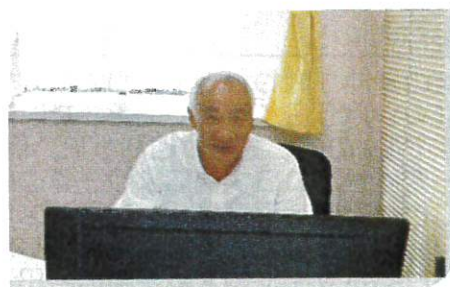
私が県立三ツ境養護学校に新採用された当時(1977年)、知的障がい児や肢体不自由児の学校はまだ義務教育になっておらず、特別支援学校や特別支援級はその数が少なく、学校に通えない障がい児が多くいた時代でした。そのため多くの人の関心は、障がい児が学校に通えるようになるため養護学校(現在は特別支援学校)を作ることに向いていました。1979年に養護学校が義務教育になり、障がい児も学校に通うことが当たりまえになりました。

しかし、その後、次の課題として学校卒業後の進路先があまりにも乏しいということがクローズアップされ、卒業後に家から通える場所として地域作業所が保護者の手によって多く作られました。障がい児に関わる課題は、卒業後の進路先だけではありませんでした。長期の学校休業中等の余暇時間の過ごし方も大きな課題でした。『宝島』も2001年の夏に座間市に住む保護者が集まって夏休みの遊び場を開設したのが、そもそもの出発だと聞いています。

その後、障がい児者福祉は、「措置」(行政が使えるサービスを定める)から「契約」(当事者【保護者】が使うサービスを定める)に変わりました。また「障害者総合支援法」により障がい者本人が生まれ育った地域で暮らす事が明確に理念化されるなど、現在、障がい児者をめぐる環境は、私が教職に就いた時代から考えると、ずいぶんと良くなったと思います。これは、障がい当事者団体、保護者の団体、障がい児者に関わる様々な機関・団体が、地道に声を上げ続けてきたからです。しかし、「地域で生活する」「契約」という理念は良いものであっても、現実には、理念先行で現実が追い付いていないというのが実情だと思います。

このような現状の中、『宝島』も障がい児者の環境がさらにより良くなるように、障がい児者支援の質の向上、支援の場の拡大を目指して力を尽くしていきたいと考えています。そのためにも、会員みなさまの一層のご支援ご協力をお願いいたします。

よろしく  
お願ひします



理事長 磯崎洋二



# コストコホールセールジャパン

## (株)座間倉庫店様より

コストコ様より、またまたプレゼントを頂きました！  
コンパクトに折り畳みができる「台車」は就労部門で大活躍♪  
お陰様で荷物の運搬が楽～にできるようになりました！  
白いボディのシンプルな扇風機はこの夏、ずーっと涼しい  
風を職場に届けてくれました♡また、毎回のように載っている  
文具類。宝島キッズや北地区児童ホームの子供たちにとって、  
なくてはならない大切な一品となっています。



### ～温かいお心を感謝します～

- ◎ご厚志・・・大塚平安教会婦人会様、柵山弘子様、小室きよみ様、松本栄子様  
梶原慎二様、鹿野理子様
- ◎野菜類・・・大矢文昭様、高橋信子様、鈴木茂様、鈴木義範様、中村次郎様、藤岡桂様  
渡辺浩二様、星野勝治様、古屋忠文様、窪田耕一様、山本民子様
- ◎ペットボトルキャップ・・・星野ゴルフガーデン様、大塚平安教会様、張美津子様、  
五島様
- ◎その他・・・コストコホールセールジャパン座間倉庫店様（台車、扇風機、文具類）、  
土屋様（レース編みテーブルクロス）、波多野ふみこ様（コピー用紙）、  
高橋早苗様（シルバニアファミリーの遊具）



心から感謝し、大切にに使わせていただきます！

### 一緒に働いて下さる方を募集しています！！～非常勤スタッフ募集～

赤い屋根（日中一時支援）のスタッフを募集しています。

☆勤務日数：日曜日～土曜日（週1回～2回程度できる方）

14：00～18：00（土日祝日は9時～17時）

運転のできる方、歓迎します！ ※原則シフト表に基づく

☆勤務場所：赤い屋根（座間市座間2-969）



お問合せ：046-259-5120 担当：本下

介護職経験者、大歓迎です。施設見学もできます。詳細につきましてはお問合せください。

### 【編集後記】

開催の是非が問われた2020東京オリンピック・パラリンピックが、大きなトラブルに見舞われることもなく9月5日、無事に閉幕した。連日のように「日本、金メダル！」の報が飛び交い、毎晩、遅い時間までTVの前に釘付けとなった。両大会併せて日本が獲得したメダルの数は109にもものぼる。世界を一変させたコロナ禍により一年の延期が決まり、5年にもわたる長い長い挑戦の末にメダルを手にすることができたアスリートたちにはただただ拍手を送りたい。また、メダルには届かなかったものの、自分の持てる力を遺憾なく発揮した選手たちに対しても同じ思いである。個人的にはパラリンピックにおけるボッチャ個人戦決勝の杉田選手が一番のハイライトであった。ここ一番での集中力と、高い技術、秀でた戦術眼には、ただただ敬服するばかり。同業者という意味でも、畏敬の念を抱かずにはいられない存在であった。いつか、「宝島」からもパラリンピアンが輩出したら……などと勝手に夢想してしまう自分がそこにはいた。では、次号もお楽しみに！